

(議長)

休憩を閉じて、さ、再開致します。

次に、塚本議員の発言を許可致します。

「塚本議員」

はい。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー私からは、えー今定例会、えー3問の質問をさせていただきますが、えーまっ今後、おーこのあと、おー町長選もあると言う事で、ま、これまでの実施された中身も含めた町政の、おー進捗状況、そんなのも含めて、本定例会、3問の質問をさせていただきます。

まず第1問目ですが、役場機能のデジタルトランスフォーメーション、まあ通称DXって言われてますが、これについての進捗状況についてであります。

えー町では、役場機能のデジタルトランスフォーメーションを推進することとしております。まあデジタルトランスフォーメーションについては、えー役場内もありますし、バックオフィス、或いはデータ活用色々あるんですが、えー現状の、おーフロント業務、バックオフィスデータ、データ活用等でのこれまでの、おー取り組み内容、どの程度進んでいるのか、この辺についてお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

塚本議員の1問目、役場機能のデジタルトランスフォーメーション、DXの推進状況についてのご質問にお答え致します。

町では、人口減少や少子高齢化社会の中にあって、多様化する住民サービスを踏まえ、業務の、業務の効率化と住民サービスの向上を図り、持続可能な行政運営を構築するため、デジタルトランスフォーメーションいわゆるDXを推進しているところであり、塚本議員からは、これらの取り組みに関する推進状況についてのご質問をお受けしているところでございます。

初めに、オンライン申請やキャッシュレス、キャッシュレス決済など、住民サービスの利便性の向上に繋がるフロント業務につきましては、えっこれらの取り組みの基盤整備とし

て、国が進める標準、標準、えー標準準拠システムへの移行を本年の10月を目途に進めております。

えっ次に、電子決裁やペーパーレス化など、行政内部の事務を効率的に行うためのバックオフィス及び各課が保有する情報を業務改善や政策立案に、えっ活用するデータ活用についてでございますが、あ、現在これらの取り組みの基盤となるネットワーク環境の整備を進めているところであり、えー今後は標準化された基幹システムをベースに、各課が保有するデータの活用のあり方などの検討を進めて行く事としておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー、まあ、今の説明だと、なかなか進んでないって言うのは現状かなという感じはするんですが、まあ私から言うのも何なんですが、まあ議会、もう議会も、このDX、どんどん私は進めるべきだというふうに思ってます。

まあ毎回、このた、大量の紙ベースの資料、もう、こういう時代ではないので、あの一、まあ委員会も場合によってはタブレットであるとか、色んな部分も可能性あるので、まあこれらも含めて、まあ今後の検討課題になるんでしょうが、あの一、このDXの計画の中にもそういうことも、一部、片隅、頭の片隅に置いてるのかどうか、議会改革の方もDX何とかしたい、この辺一点について何かご考えがあれば伺います。

「総務課参事」

総務課参事。

(議長)

総務課参事。

「総務課参事」

はい、えーと塚本議員の2問目にお答えさせて頂きたいと思います。

えーと一、ご、議員ご指摘の通り、こ、今後ですね、えーと一、各、えーと一議員若しくは職員も、えーとタブレットなどを活用しながらペーパーレス化を目指して行きたいと思ってございます。

まずその前には、えーと、それを活用する基盤を作らないことには、えーと活用がなかなか広がっていかないとやったところもありますので、優先的にまず基盤を整えて、えっと、そう言った物の活用を目指して参りたいと思いますので、ご理解の程、いた、お願い致します。

(「よし、分かった」の声)

(議長)

よろしいですか。はい。塚本議員。

「塚本議員」

はい。時間が掛かるって言うのは分かりましたので、よろしくお願いしたいと思います。

続いて第2問目に入らせて頂きますが、えー檜山沖洋上風力発電の今後のスケジュールについてであります。

えー昨年、檜山沖が洋上風力発電の促進地域に指定されました。まあ全国的には一部地域において、大手事業者の撤退等の動きがあり、えー経産省では昨年の12月に新たな公募制度を発表し、えー公募制度が大きく変わったと聞いております。

えーこの公募制度改正により、檜山沖、えー洋上風力発電の今後が大きく変わって行くのかなあというふうにも思われます。

えーなかなか、あの公募が進まない中で、今後の江差町で把握している、えー檜山沖洋上風力発電の、今ま、今の時点での、おどろというスケジュールの今、現状に置かれているのか、今後、公募はいつ頃されるのか、もし一定程度の情報をお持ちであればご答弁、ご説明をお願いします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

塚本議員の2問目、檜山沖洋上風力発電の今後のスケジュールについてのご質問にお答え致します。

檜山沖洋上風力発電事業においては、議員ご指摘の通り、令和7年さん、えっ失礼しました。令和7年7月30日、再エネ海域利用法による促進区域に指定されたところでございます。えっ、そののち、洋上風力第1ラウンドの秋田県と千葉県の3海域の事業主体である三菱、三菱商事が撤退し、昨年12月に洋上風力事業をす、完遂させるための新たな公募制度が経済産業省、国土交通省より示され、えっその内容は、事業実現性評価点の配点の見直しや適切な供給価格での入札がされるための価格点の、えー設計など、6点に渡るもので、黎明期にある我が国の洋上風力の導入を確実なものに、とする観点から、引き続きコス、コスト低減を重視しつつ事業完遂が可能な計画を、お一高く評価する内容で見直されております。

公募制度の見直しは、洋上風力事業の長期的・安定的かつ効率的な実施を可能とするため、その都度、事業環境等を踏まえ、えー見直されており、第4ラウンドとなる檜山沖は、より洋上風力発電事業の事業完遂性に向けた整備がされるものと考えています。

えっ当町で把握しているスケジュールですが、国では三菱商事が撤退した第1ラウンド、3海域の公募占用指針案の策定に向け準備をしているところで、檜山沖やその第1ラウン

ドの再公募が終了してからと想定しています。

えー檜山沖洋上風力発電事業のスケジュールについて、遅れていることは否めませんが、町と致しましては、昨年12月に設置した官民から成る洋上風力推進プラットフォームを中心とした受け入れ体制の整備や、町内における洋上風力人材育成施設の整備に向け準備を進めているところです。

えー公募制度の見直しが洋上風力発電事業を確実なものとし、地域に対する経済効果を最大化するものと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「塚本議員」

議長。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー洋上風力発電の、おー関係では、えー地域貢献策、えー最大85.5億の基金が造成されるとも伺っております。えー出来るだけ早い時期に、えー公募が行われ、入札そして、えー事業の開始を望まれるところであります。

えー続いて、人口減少の要因について、お伺い致します。

5月の29日に、えー総務省による国勢調査の速報値が公表されております。

道内人口が5年で24万人減少、500万人割れ、これは70年振りというふうに言われております。まあの檜山管内においても、7町で減少率が2桁になっております。管内最多人口であった江差町が15.7%の6,259人、まあ、ぜん、直近ではもう既に、えーせたな町が管内の、おートップの人口というふうになってるのかなと思います。

まあ町長は、えー町政執行方針で、人口減少、少子高齢化という課題に対し、雇用機会の創出や暮らし易い環境整備することで、人口の流出を抑制し、若年層の定住促進を図ることを目指し、まち作りを進めてきめ、来たと明言されております。

えー江差町では前回の調査から比べて、檜山管内最高の下落、うー15.7%程、おー人口が減ったという結果で、えー道南全体でも、人口が増えたのは長万部町唯一。あとは軒並み減ったと言う事で、まあ長万部町については、まあ新幹線絡みでの人口が増えたと言う事なようですが、なかなか、これは一長一短で人口を増やすと言う事は、増やすと言うよりも、むしろ人口の減り方をいかに抑えるか、という方にも力点を押さえ、もう変えていかなきゃいけないのかなというような気がしてます。

これまでの施策、これらについて再検討が求められると思いますが、町長のこれまでの、お、うー政策についての所見をお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

えー塚本議員の3問目、人口減少の要因についてのご質問にお答えを致します。

5月29日に令和7年国勢調査の速報値が公表され、江差町の人口は5年前と比べ15.7%減の6,259人となりました。江差町の人口ビジョンにおける人口目標を約300人下回る厳しい数字となっており、強い危機感を持って受け止めております。

なかなか人口減少を食い止められない要因について、どのように判断しているのかとのご質問ですが、現時点で詳細な数値が公表されておきませんので、えー国勢調査の結果に基づく分析はまだ出来ませんが、住民基本台帳人口などの推計から見ると、えー自然減・社会減2つの要因があると認識しております。

令和7年度の状況を見ると、自然減に関しましては、出生数が17人に対し、死亡数が135人となっており、出生数が、し、死亡数を大きく下回っております。また社会減に関しましては、転入が371人に対し、転出が431人と転出超過となっており、これまで進めて来た子育て、えー環境の充実など定住促進に向けた、あつ各種施策が一定程度、社会減抑制に繋がっているものと考えております。

えー今後、人口動態のデータを詳細に分析し、対策の見直しも含め検討を進めて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

（「よし、お疲れさん」の声）

（議長）

塚本議員。

「塚本議員」

えー、まあ人口対策の関係で、江差町は、高校、江差高校卒業後の進学・就職で、7割が町外へ移動する構造が、もうずっと続いています。まあ町内に大学・専門学校が無い。或いは就職先が限定的。で、若い人方が暮らすための住環境だとか、娯楽が少ない。まあこういうことが非常に大きな、あ、あの人口減を食い止められない要因と私は判断しておりますが、まあ今後、これらの、お一中身は簡単には、えー軌道修正出来ないと言う事であります。

まあ先ほど質問にありましたが、この洋上風力等の設置を機に、新たな雇用の創出等を踏まえながら、人口減の、お一最小化を、是非、目指して貰いたいと思います。

以上で質問を終わります。

（議長）

以上で塚本議員の一般質問を終わります。

えー1時まで休憩致します。